

水稻生産情報

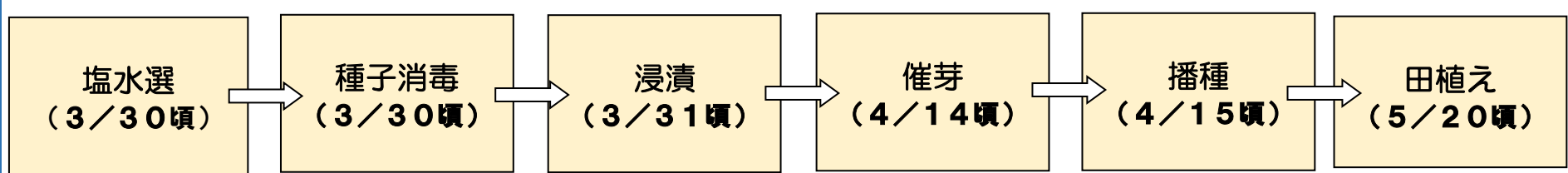


JA つがる弘前
中央地区営農係

今年から本格的に『はれわたり』が作付けされます。
『はれわたり』は種籾が発芽し難い性質があります。更に昨年登熟期が高温だった為、今年種の籾は発芽し難くなっています。そのため、今年『はれわたり』は特に出芽揃いが悪い可能性がありますので、種籾消毒・浸漬では水温を10℃以上確保するよういつも以上に注意しましょう。また浸漬の時期が早すぎると、気温も低く水温を確保できませんので、田植えから逆算し3月下旬頃から計画的に作業を行いましょう。

作業日程 (5月20日定植の場合)

●種子消毒と浸漬の順番に注意し、使用農薬を確認して下図の通り進めましょう！



塩水選

●充実した籾を選別しましょう。塩水選後は、付着した塩分を十分洗い流しましょう。

- うるち米：比重 1.13 (水 10ℓ に塩 2.1kg)
- もち米：比重 1.08 (水 10ℓ に塩 1.2kg)



面倒ですが必ず塩水選を行いましょう！

重要!

●薬液の温度は10℃以上を保とう！

種子消毒

使用方法		
浸漬法	テクリードCフロアブル	200倍液(水20ℓに100cc)で24時間浸漬。薬液20ℓ当たり種籾10~15kg処理ができます。
紛衣法	モミガードC水和剤	半乾燥状態の籾1kgあたりに薬剤5gを散布。

※青天の霹靂の作付け者はテクリードCを使用しましょう。

【はれわたりの特徴】

耐倒伏性：やや強
 穂発芽性：極難
 耐冷性：強
 葉もち：強
 穂もち：極強
 胸割れ率：9.8

はれわたりの穂発芽性は極難です。出芽をそろえるためにも、種子消毒・浸漬時の水温管理(10℃以上)をきちんと行いましょう。

重要!

浸漬

●水温は10℃以下にならないよう、10~14日浸漬(やや長め)しましょう。

- 水の交換は3日に1度行いましょう。
※最初の2日間は種子消毒剤を落ち着けるため水の交換は行いません。
- 水を交換する時は、籾袋の上下を入れ替え、温度のムラを無くしましょう。
※浸漬期間中に低温に遭遇した場合も、積算温度を確保するため長めに浸漬を行いましょう。

催芽

●催芽で芽や根が折れると生育遅れやムラが発生します。伸ばし過ぎには注意しましょう。

- 催芽を行う際は30~32℃で16~20時間を目安に行いましょう。
※40℃を超えると発芽能力が低下します。
- 催芽完了の目安はハト胸程度に膨らんだ状態です。
- 催芽が終わった種籾は、伸びすぎてしまわないよう冷水でよく冷やしておきましょう。



理想のハト胸状態



催芽後、よく冷やそう

播種

●厚播き厳禁！

- 中苗散播では、催芽籾120g程度を目安にしましょう。
- 厚播きは軟弱・徒長苗ができやすく『ムレ苗』発生リスクが高まります。また、徒長苗は田植え後の代枯が発生しやすくなるので厚播きはやめましょう。覆土は5mm程度の厚さにしましょう。



厚播き厳禁！

床土づくり

●前もって調整しておきましょう。ご不明な点は営農指導担当にご確認ください。

	肥料		殺菌剤	
	サイコー11号(肥料)	ナエファイン粉剤	ナエファインフロアブル	
山土	20g/箱 (5kgで250枚分)	8g/箱 (3kgで375枚分)	播種時灌注 2,000倍(1ℓ/箱)	緑化期 1,000倍(500cc/箱)
人工培土	肥料分が入っているため不要 ※無肥料培土の場合は山土と同様	6g/箱 (3kgで500枚分)		



自家製培土は、pH調整・排水性・保水性に気を付けましょう！